

テレビドラマに見られる喫煙関連シーンに関する調査(2)

サカグチ サナエ サカグチ タケヒロ
坂口 早苗*¹ 坂口 武洋*²

目的 1998(平成10)年4月1日のテレビでのたばこ個別銘柄の広告規制後に、ある人気タレントが主演するドラマでの喫煙シーンが増加していることを前報で報告した。その後も調査を継続し、調査対象ドラマ数を増やして、その現象を実証的に検証する。

調査方法 調査対象のドラマの収録ビデオから放送時間を計測し、その中から喫煙に関連したシーンの解析を行った。喫煙関連シーンは喫煙に関するすべてのシーンであり、喫煙シーンとセットの道具などの場面の合計である。喫煙シーンとは、実際の喫煙、たばこに火をつける、たばこの火を消す、副流煙、置きたばこ、銘柄描写シーン、せりふなどの場面である。セットの道具とは、火無したばこ、たばこ箱からたばこを出す、吸い殻、たばこ箱、灰皿などの場面である。調査対象ドラマは、広告規制後に制作され午後9時台に民放で放送された、ドラマ部門で週間高視聴率番組10位までに入ったことのあるドラマで、1998～2000年は4作品、2001年は9作品、2002～2003年は10作品の計23作品である。

結果 規制後のドラマにおける喫煙関連シーンの回数は1ドラマ当たり215.8回(1時間当たり24.4回)であり、そのうち喫煙シーンは111.1回(12.6回/時)、実際の喫煙は68.9回(7.8回/時)であった。今回調査したドラマは、主人公が喫煙するシーンのあるドラマは全体で13/23番組(57%)であり、男性主人公の喫煙関連シーンは44.1回(5.0回/時)であった。一方、女性の喫煙シーンは4.0回(0.5回/時)であり、2002年以降増加した。銘柄描写シーンの回数は12.8回(1.4回/時)、1ドラマ当たりの平均描写時間は1分3秒、放送回数当たりの銘柄描写シーン回数は1.2回であった。

結論 テレビのたばこ銘柄広告が中止されることによって、憂慮されていたたばこ銘柄描写シーンの増加を確認した。すなわち、たばこ箱やカートンのアップシーン、銘柄の明らかに判読できるたばこ箱の描写シーン、判別できる銘柄たばこを喫煙するシーンが増加していた。また、女性出演者の喫煙シーンが増加していること、せりふの中に銘柄名が含まれる場面もあることも確認した。2003年のWHOの禁煙デーのスローガンともなっているように、テレビ番組制作者は積極的に喫煙関連シーンのないテレビ番組の制作を実行し、国民は未成年者が喫煙行動をしにくい社会環境をつくりあげなければならない。

キーワード たばこ、喫煙シーン、ドラマ、広告、社会的環境

I 緒 言

顕著に高く、喫煙者は税金を支払い国税に貢献しているという社会的依存や喫煙許容文化を培ってきた。市中には、喫煙すれば環境が良くな

日本は、長年男性の喫煙率が欧米と比較して

* 1 川村学園女子大学教育学部社会教育学科教授 * 2 同人間文化学部生活環境学科教授

組H」(12回, F社, 2001年), 「番組I」(10回, T社, 2001年), 「番組J」(11回, F社, 2001年), 「番組K」(11回, F社, 2001年), 「番組L」(11回, T社, 2001年), 「番組M」(12回, F社, 2001年), 「番組N」(12回, F社, 2002年), 「番組O」(12回, F社, 2002年), 「番組P」(11回, F社, 2002年), 「番組Q」(11回, F社, 2002年), 「番組R」(11回, T社, 2002年), 「番組S」(11回, F社, 2002年), 「番組T」(11回, F社, 2002年), 「番組U」(12回, F社, 2002年), 「番組V」(11回, F社, 2003年), 「番組W」(10回, T社, 2003年)である。総放送回数は257回, ビデオ収録は100%であり, 上記の番組すべてについての調査結果である。なお, 調査は実際の喫煙とたばこ銘柄描写シーンを最優先とし, 他のセット道具があった場合でも, 前述の当該シーンのみ計測した。ただし, 両シーンが同時に見られた場合は個別にそれぞれに加算し, 喫煙シーンの回数や時間は両方で1回とし, その時間を計測した。

Ⅲ 結 果

表1に規制後の1ドラマ当たりの喫煙関連シ

表1 規制後の1ドラマ当たりの喫煙関連シーンの年次推移

	1998～2000年	2001年	2002～2003年	平均値
ドラマ数	4	9	10	—
総放送時間(h:m:s) ¹⁾	34:32:56	80:10:49	90:07:48	—
1ドラマ平均放送時間(h:m:s)	8:38:14	8:54:32	9:00:47	8:54:25
喫煙関連シーン回数 ²⁾	163.8	268.2	189.4	215.8
うち喫煙シーン ³⁾	114.3	127.6	95.0	111.1
うち男性主人公	58.0	68.6	16.6	44.1
うち女性	0.5	1.1	8.1	4.0
うち必然性のあるシーン ⁴⁾	0.0	3.0	0.0	1.0
喫煙関連シーン時間(m:s)	15:16	22:51	14:42	17:59
うち喫煙シーン	9:48	9:07	6:03	7:54
うち男性主人公	5:56	5:20	1:38	3:50
うち女性	0:04	0:07	0:34	0:18
うち必然性のあるシーン	0:00	0:16	0:00	0:06
1時間当たりの回数	18.8	30.3	21.3	24.4
うち喫煙シーン	13.1	14.5	10.7	12.6
うち男性主人公	6.5	7.8	1.9	5.0
うち女性	0.1	0.1	0.9	0.5

注 1) ビデオの収録時間から算出

2) 喫煙シーンとセットの道具

3) 実際の喫煙, たばこに火をつける, たばこの火を消す, 副流煙, 置きたばこ, 銘柄描写シーン, セリふなどの場面

4) 物語の内容から必要と思われたシーン

シーンの年次推移を示した。喫煙関連シーンの回数は, 1998～2000年は163.8回(1時間当たりの回数; 18.8回), 2001年は268.2回(30.3回/時), 2002～2003年は189.4回(21.3回/時)であり, 規制後の1ドラマ当たりの平均回数は215.8回であった。規制後の1時間当たりの平均回数は24.4回であり, 2.5分に1回の割合で, 喫煙関連シーンが見られた。

そのうち喫煙シーンは, 1998～2000年は, 114.3回(13.1回/時), 2001年は127.6回(14.5回/時), 2002～2003年は95.0回(10.7回/時)であり, 規制後の1ドラマ当たりの平均回数は111.1回(12.6回/時)であった。今回調査したドラマは, 男性主人公が喫煙者とは限らず, 主人公が喫煙するシーンのあるドラマは, 1998～2000年は3/4番組(75%), 2001年は7/9番組(78%), 2002～2003年は3/10番組(30%)であり, 全体で13/23番組(57%)であった。したがって, 男性主人公の喫煙関連シーンは, それぞれ58.0回(6.5回/時), 68.6回(7.8回/時), 16.6回(1.9回/時)であり, 規制後の1ドラマ当たりの平均回数は44.1回(5.0回/時)であった。

また女性の喫煙シーンは, 1998～2000年は0.5回(0.1回/時), 2001年は1.1回(0.1回/時),

2002～2003年は8.1回(0.9回/時)であり, 規制後の1ドラマ当たりの平均回数は4.0回(0.5回/時)であり, 2002年以降増加した。今回調査した23作品では, 主演女優が喫煙するシーンは見られなかった。なお, 物語上必然性を有する喫煙関連シーンは, 全ドラマの放送回数257回のうち1回のみであり, 使用小道具はマッチであった。

表2では, 規制後の1ドラマ当たりの喫煙シーンの年次推移を示した。実際の喫煙においては,

1998～2000年は70.5回(8.1回／時)，
2001年は76.4回(8.7回／時)，
2002～2003年は61.5回(6.9回／時)で
あり，規制後の1ドラマ当たりの平均
回数は68.9回(7.8回／時)であった。喫
煙時間は，それぞれ7分24秒，6分29
秒，4分37秒であり，規制後の1ドラ
マ当たりの平均喫煙時間は5分50秒で
あった。個別に回数の多い作品をあげ
ると，「番組V」では211回(喫煙時間；
15分9秒)，「番組L」では188回(20分
16秒)と著しく多く，次いで「番組K」
134回(10分26秒)，「番組D」130回(8
分17秒)であった。

また，副流煙は，1998～2000年では
21.5回，2001年は21.2回，2002～2003
年は15.0回であり，規制後の1ドラマ
当たりの平均回数は18.6回であった。
副流煙の放映時間はそれぞれ56秒，55
秒，44秒であり，規制後の1ドラマ当
たりの平均副流煙放映時間は51秒であ
った。中でも「番組A」では59回(副流煙放映時
間；2分32秒)，「番組L」では46回(2分35秒)，
「番組Q」では43回(2分57秒)，「番組I」では
42回(1分44秒)であった。

銘柄描写シーンの回数は，1998～2000年は7.8
回，2001年は18.1回，2002～2003年は10.1回で
あり，規制後の1ドラマ当たりの平均回数は
12.8回であった。1時間当たりの銘柄描写シー
ンの回数はそれぞれ0.9回，2.0回，1.1回であ
り，規制後の1時間当たりの平均回数は1.4回で
あった。銘柄描写時間は49秒，1分31秒，44秒
であり，規制後の1ドラマ当たりの平均銘柄描
写時間は1分3秒であった。調査番組の中で銘
柄描写回数の総和は295回(全ドラマの放送回数
は257回)であり，放送回数当たりの銘柄描写シー
ン回数は1.2回となった。中でも「番組L」で
は84回(銘柄描写時間；7分27秒)と回数，描写
時間とも極端に多量であった。次いで「番組M」
23回(1分34秒)，「番組E」21回(1分40秒)，「番
組T」19回(1分52秒)，「番組W」18回(1分20
秒)と回数が多く，「番組K」では11回(1分43秒)

表2 規制後の1ドラマ当たりの喫煙シーンの年次推移

	1998～ 2000年	2001年	2002～ 2003年	平均値
ドラマ数	4	9	10	—
喫煙シーンの回数(再掲)	114.3	127.6	95.0	111.1
うち実際の喫煙 (男性主人公)	70.5	76.4	61.5	68.9
うちたばこに火をつける (男性主人公)	35.5	42.6	8.3	26.4
うちたばこに火をつける (男性主人公)	9.5	7.0	4.4	6.3
うちたばこの火を消す (男性主人公)	5.8	4.3	1.1	3.2
うちたばこの火を消す (男性主人公)	2.0	4.2	2.0	2.9
うち置きたばこ (男性主人公)	0.5	2.4	0.1	1.1
うち置きたばこ (男性主人公)	1.0	0.6	1.2	0.9
うち副流煙 (男性主人公)	21.5	21.2	15.0	18.6
うち銘柄描写シーン (男性主人公)	15.0	10.9	3.5	8.4
うち銘柄描写シーン (男性主人公)	7.8	18.1	10.1	12.8
せりふの回数	2.8	2.9	2.9	2.9
喫煙関連シーン時間(m:s, 再掲)	9:48	9:07	6:03	7:54
うち実際の喫煙 (男性主人公)	7:24	6:29	4:37	5:50
うちたばこに火をつける (男性主人公)	4:44	4:05	1:06	2:54
うちたばこに火をつける (男性主人公)	0:35	0:16	0:08	0:16
うちたばこの火を消す (男性主人公)	0:03	0:08	0:04	0:05
うち置きたばこ (男性主人公)	0:06	0:03	0:04	0:04
うち副流煙 (男性主人公)	0:56	0:55	0:44	0:51
うち銘柄描写シーン (男性主人公)	0:39	0:30	0:14	0:25
うち銘柄描写シーン (男性主人公)	0:49	1:31	0:44	1:03
1時間当たりの喫煙シーンの回数(再掲)	13.1	14.5	10.7	12.6
うち実際の喫煙 (男性主人公)	8.1	8.7	6.9	7.8
うち銘柄描写シーン (男性主人公)	6.5	7.8	4.8	6.3
うち銘柄描写シーン (男性主人公)	0.9	2.0	1.1	1.4

表3 規制後の1ドラマ当たりのセット道具の年次推移

	1998～ 2000年	2001年	2002～ 2003年	平均値
ドラマ数	4	9	10	—
セット道具の回数	49.5	140.6	94.4	104.7
セット道具の時間(m:s)	5:29	13:43	8:39	10:05
1時間当たりの回数	5.7	15.8	13.5	11.8
内訳(セット道具の回数)				
火無したばこ, キセル, パイプ	5.5	8.8	10.7	9.0
たばこ箱からたばこを出す	0.5	2.0	1.7	1.6
吸い殻	3.3	5.9	4.3	4.7
たばこ箱(銘柄不明)	1.5	14.8	10.8	10.7
口パイプ	—	—	1.3	0.5
たばこ入れ	—	—	2.3	1.0
灰皿	29.3	94.9	55.6	66.4
灰皿・たばこセット	9.5	7.8	5.1	6.9
灰皿とマッチ(ライター)	—	0.6	0.7	0.5
マッチ(ライター)	—	5.2	1.0	2.5
自販機	—	0.7	0.4	0.4

と回数は平均より少なかったが，描写時間が長
かった。

たばこに関するせりふの回数は，1998～2000
年は2.8回，2001年は2.9回，2002～2003年は2.9
回であり，年次による変化はなく，規制後の1
ドラマ当たりの平均回数は2.9回とほぼ一定で

あった。せりふの回数の総和は66回であり、そのうち禁煙に関するものは5回、喫煙マナーに関するものは2回、せりふの中に銘柄名まで出てくるシーンは2回であった。

表3には規制後の1ドラマ当たりのセット道具の年次推移を示した。セット道具の回数は1998～2000年は49.5回(5.7回/時)、2001年は140.6回(15.8回/時)、2002～2003年は94.4回(13.5回/時)であり、規制後の1ドラマ当たりの平均回数は104.7回(11.8回/時)であった。具体的には、火無したばこ類、銘柄不明のたばこ箱の増加が著明であり、灰皿はドラマでは一般的に小道具として頻繁に見られる光景であった。1ドラマ当たりのセット道具の平均時間は、それぞれ5分29秒、13分43秒、8分39秒であり、規制後の平均時間は10分5秒であった。

IV 考 察

1980年代後半から、アメリカではたばこ広告が若者たちに与える影響についての研究が多数行われるようになった。Pierceら⁶⁾は、3年間の追跡調査を通じ、3年前にたばこ広告に良い印象を有していた未成年は、その後喫煙経験者や喫煙者になる割合が有意に高いことを実証した。日本においても、尾崎ら⁷⁾は頻回に雑誌広告されている銘柄ほど若年層の喫煙率が高いこと、広告銘柄は必ずしも市場シェアを反映せず、たばこ広告が未成年者の喫煙銘柄決定に影響を与えている可能性があることを報告した。そして、テレビのたばこ広告中止の影響をみるために、1997年10月から1999年3月にかけて、47雑誌の月別広告量の推移を調査し、1999年1月からの月別広告量が増加していることを指摘した⁸⁾。

青少年のテレビ視聴時間が長いことは、日本でも度々問題となっている。テレビでは以前から多くの番組において喫煙シーンが放送されてきた。曾根ら⁹⁾は1995～1996年に放送された若者向けで視聴率の高いテレビドラマの5作品、計59話における喫煙シーンの頻度と時間を調査した結果、1時間当たり喫煙関連シーンは4.45回と算出され、アメリカで行われた同様の調査

と比較して、4～5倍多いと報告した。さらに、広告規制後に、テレビでの商品広告以外のたばこ・喫煙のシーンが増加する可能性があることを指摘した。ドラマの喫煙シーンは未成年者の喫煙へ影響を及ぼすか否かについて、著者らの大学生たちへの質問紙調査によると、約7割が影響を与えていると考えていることが判明した⁹⁾。その調査の中で、大半にあげられた理由は、好きな俳優や人気のあるタレントの喫煙は、「憧れる」「マネしたい」「吸ってみたいくなる」であった。これらの結果は、格好の良いスターの喫煙する姿は、子どもたちの喫煙開始の動機付けになる可能性があることを示唆した。そこで、著者らはたばこ広告規制前後に放送されたドラマについて、セットの道具として使用されている灰皿などのシーンも含めて、詳細に喫煙関連シーンを分析調査することにした。前報⁵⁾では、タバコ問題首都圏協議会で、2000年3月21日にワーストスモーカーの1人にあげられた人気タレントに着眼し、彼が主演した規制前後のテレビドラマについて調査し、規制後に喫煙シーンと喫煙関連シーンが増加していることを報告した。しかし、調査ドラマ数が少なく、調査した標本の結果を一般論として論じることが困難であったため、本論文では調査ドラマ数を増やし検討した。放送されたすべてのドラマを調べることは不可能であるため、今回調査したドラマは、午後9時台に民放で放送された、ドラマ部門で週間高視聴率番組10位までに入ったことのあるドラマ(ビデオ・リサーチ調べ)とした。いずれのドラマにも、提供や協力などにたばこ関連会社は含まれていない。また、主演者が喫煙しないドラマが約半数を占める。それにもかかわらず、これらのドラマにおいて、前報⁵⁾で報告した規制前のデータ(主演者が喫煙者)と比較して、喫煙関連シーンは156.3回(18.2回/時)から215.8回(24.4回/時)に、銘柄描写シーンは5.0回(0.6回/時)から12.8回(1.4回/時)に大幅に増加していることが判明した。特に、1999年にたばこ広告に出演した俳優が主演するドラマでは、たばこ銘柄描写シーンが非常に多く認められた(「番組L」：回数84回、描写時間7分27秒)。

なお、前述のワーストスモーカーの1位から3位までの3人が出演したドラマは、番組B, D, K, Q, Wであり、それらの喫煙関連シーンの回数などは前報の規制後のデータと同程度に多いことが判明した。

平成15年5月からは健康増進法が施行され、受動喫煙防止を法的に義務づけた。「番組S」は小中学生にも人気があった番組ではあったが、くじ引きの箱に銘柄名が明記されたたばこ箱であったこと、子どもの前で平然とたばこを吸うシーンが男性で3回3秒、女性で3回12秒見られた。今後は喫煙関連シーンをなくすとともに、喫煙関連シーンの必然性がある場合には副流煙のシーンや喫煙のマナーも考慮したドラマの制作が必要である。神田ら¹⁰⁾もテレビドラマにおける描写場面の実態を調査し、分煙の配慮がなく、喫煙の必然性のない場面での喫煙が多く、喫煙を否定する描写が少ないことを指摘している。このようにテレビドラマの喫煙関連シーン調査を継続したところ、テレビのたばこ個別銘柄広告が中止されることによって、憂慮されていたたばこ銘柄シーンの増加を確認した。すなわち、たばこ箱やカートンのアップシーン、銘柄が明らかに判読できるたばこ箱の描写シーン、判別できる銘柄たばこを喫煙するシーンが増加していた。また、女性出演者の喫煙シーンが増加していること、せりふの中に銘柄名が含まれる場面があることも判明した。2003年の世界保健機関(WHO)の世界禁煙デーのスローガンは'tobacco free films tobacco free fashion Action!'である。テレビ番組制作者は積極的に喫煙関連シーンのないテレビ番組の制作を実行し、国民は未成年者が喫煙行動をしにくい社会環境をつくりあげなければならない。

文 献

- 1) Distefan JM, Gilpin E, Sargent JD, et al. Do movie stars encourage adolescents to start smoking? Evidence from California. *Prev Med* 1999; 28: 1-11.
- 2) Sargent JD, Beach ML, Dalton MA, et al. Effect of seeing tobacco use in films on trying smoking among adolescents: cross sectional study. *BMJ* 2001; 323: 1394-7.
- 3) Sargent JD, Tickle JJ, Beach ML, et al. Brand appearances in contemporary cinema films and contribution to global marketing of cigarettes. *Lancet* 2001; 357: 29-32.
- 4) 曾根智史, 藤崎清道. テレビのたばこ広告中止の予想される影響. *厚生指標* 1998; 45(4): 3-8.
- 5) 坂口早苗, 坂口武洋. テレビドラマに見られる喫煙関連シーンに関する調査. *厚生指標* 2003; 50(4): 15-9.
- 6) Pierce JP, Choi WS, Gilpin EA et al. Tobacco Industry Promotion of Cigarettes and Adolescent Smoking. *JAMA* 1998; 279: 511-5.
- 7) 尾崎米厚, 曾根智史, 谷畑健生. 平成11年度研究報告書 未成年者の喫煙・飲酒を取り巻く環境に関する研究. 健康科学総合研究事業, 2000.
- 8) 尾崎米厚, 曾根智史, 谷畑健生. 平成10~12年度総合研究報告書 未成年者の喫煙・飲酒を取り巻く環境に関する研究. 健康科学総合研究事業, 2001.
- 9) 坂口早苗, 坂口武洋. 大学生の喫煙に関する意識. *日公衛誌* 2002; 49(10): 373.
- 10) 神田秀幸, 岡村智教, 門脇 崇, 他. テレビドラマにおける喫煙描写場面の実態. *日公衛誌* 2003; 50(1): 62-9.